

マンモグラフィ撮影室

マンモグラフィ装置

はじめに

近年、女性の<sup>りかんりつ</sup>がん罹患率（病気にかかる割合）の第1位は乳がんとなっています。その一方で死亡率は第5位です。つまり、乳がんは早期に発見し適切な治療を行えば、良好な経過が期待できるがんであると言えます。

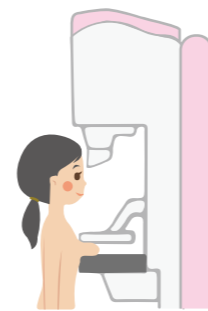
今回は乳がんの早期発見の一端を担うマンモグラフィ装置についてご紹介します。

マンモグラフィ装置とは？

マンモグラフィ装置とは、エックス線を用いて乳房を撮影する装置のことです。マンモグラフィ検査で使用しています。

また、当院では乳房用組織吸引システムと組み合わせてステレオガイド下マンモトーム生検も行っています。

※それぞれの検査については、次のページでご紹介します。



マンモグラフィ検査ってどんな検査？

マンモグラフィ検査とは、乳房を撮影台とプラスチックの圧迫板で挟んで乳房を引き伸ばし、乳腺内部の様子をエックス線で写し出す検査のことです。痛みを伴うことがありますが、全身の力を抜いてリラックスすることにより痛みが和らぎます。

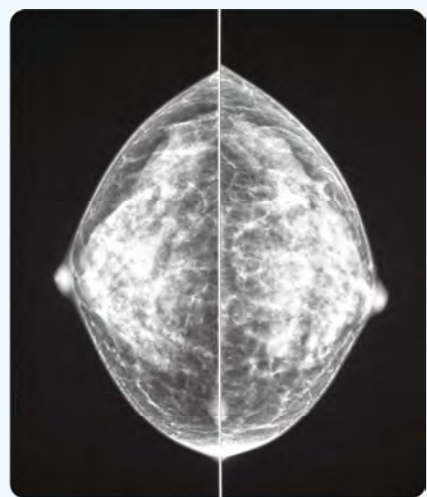
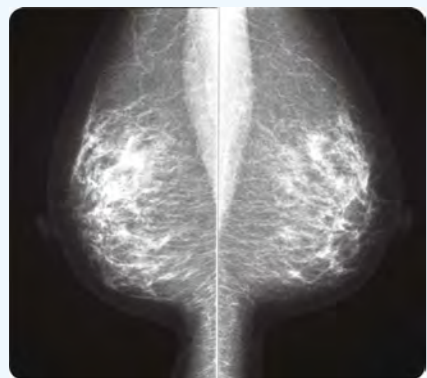
乳がんだけでなく乳房にできるさまざまな病気の発見に役立ち、特にしこりとして触れない早期の乳がんのサインである石灰化を鮮明に写し出せることが大きな特徴です。左右を比較して診ることで、乳腺の微妙な変化を発見することもあります。（左画像参照）

ステレオガイド下マンモトーム生検ってどんな検査？

ステレオガイド下マンモトーム生検とは、主に石灰化を目印にして乳房組織を生検用の針で採取し、病理組織診断を行う検査のことです。

手術室で行う外科的切除生検と比較すると、傷や痛みも少なく、生検後の乳房の変形もありません。検査中は乳房を圧迫板で固定し、エックス線で撮影して病変部を確認しながら検査を進めていきます。検査時間は30分〜1時間程度で、局所麻酔を使用します。当院ではベッドに横向きに寝た状態で行っています。（前頁右下写真参照）

乳腺画像



左右の乳房を比較して診ることにより、乳腺の微妙な変化を発見します。

質の高い検査を提供するために

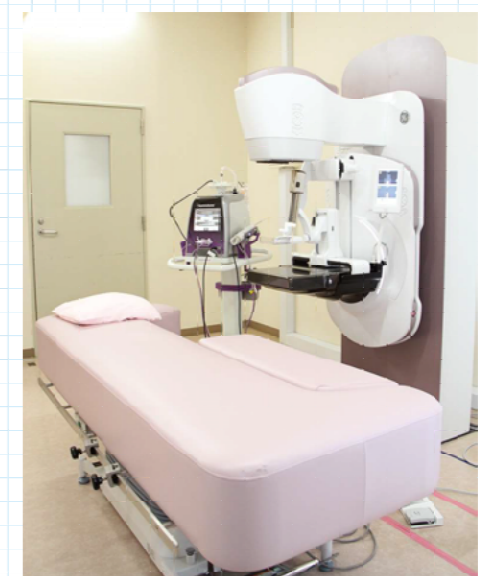


乳がん検診の精度を一定に維持するために特定非営利活動法人（NPO法人）「日本乳がん検診精度管理中央機構」が施設・医師・技師に対して認定試験を行っています。

当院は「マンモグラフィ検診施設画像認定」を取得しており、「検診マンモグラフィ撮影認定」を受けた診療放射線技師を中心に、**女性技師のみ**で検査を行っています。また、検査結果は「検診マンモグラフィ読影認定」を受けた医師が読影（画像診断）を行っています。



マンモグラフィ装置



ステレオガイド下マンモトーム生検時のセット